

南からやって来たクルマエビのそっくりさん

資源科 池脇 義弘

Key word ; クルマエビ, ミナミクルマエビ, 初記録, 腹節

今回は, クルマエビの測定調査の中で見つかった, おそらく徳島県初記録と思われるクルマエビの仲間について紹介させていただきます。

発見されたのは, 「ミナミクルマエビ」(学名: *Penaeus canaliculatus*) という名のエビで, 椿泊漁協に水揚げされたクルマエビの中から, 1999 年 10 月 8 日に体長 116mm の雌, 12 月 9 日に同 124mm の雄が見つかりました。

ミナミクルマエビは, インド洋から西太平洋に分布しますが, その名のとおりクルマエビと比べて分布域が南方に偏っており, 私の知るかぎりでは, 日本では, 親が沖縄県, 稚エビおよび若齢個体が種子島と浜名湖で発見されたという報告があるだけです。本種は全長 140mm 程度と, クルマエビに比べてやや小型で, 今回, ほぼ成体になった個体が見つかったものと思われます。

本種はクルマエビと形態が非常によく似ており, 上から見た場合ほとんど区別が付きませんが, 脚の色がクルマエビと比べて鮮やかで橙色に近いようです。

一方, 横から見ると, 模様にも明らかな違いがあります(図1)。

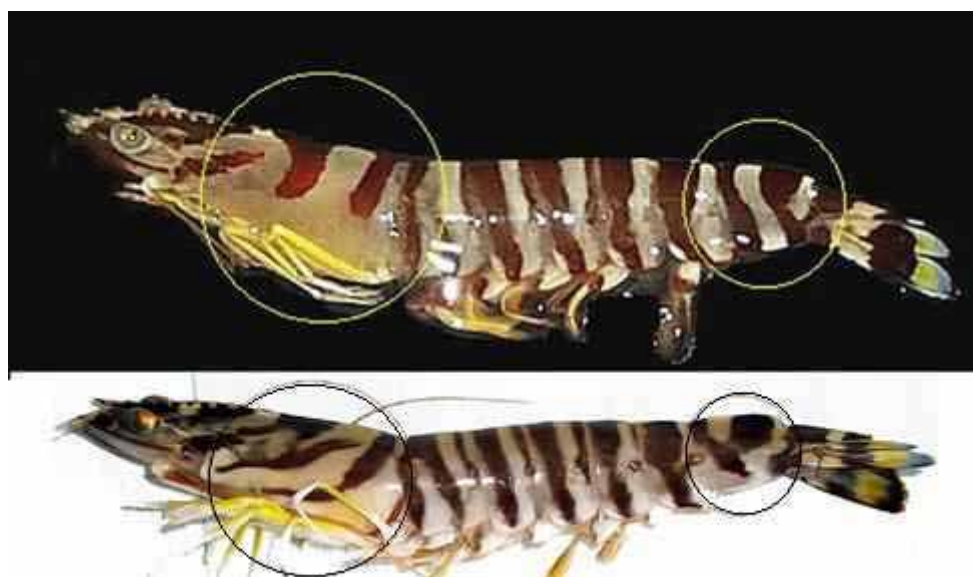


図1 ミナミクルマエビ(上)とクルマエビ(下)の模様の違い
異なる場所を丸で囲んだ

まず, 頭の部分にある二本の褐色の帯が, クルマエビでは斜めに下まで伸びています

が、ミナミクルマエビでは真下に頭の半分までしか伸びていません。また、**尾部に最も近い腹節の褐色帯**は、本種では途中で切れずに下側まで伸びています(図1)。

今回の発見で、本種が見つかった場所について、浜名湖(最北の発見地)と種子島の間の空白域が埋まりました。

ミナミクルマエビがこれまで徳島県で見つからなかったのは、ひとつに本種がクルマエビにあまりにも似ており、しかもクルマエビに混じっている率が非常に低かったため、気付かなかったのだらうと思われます。

今回立て続けに2尾も発見されましたが、最近、本県沿岸域が高水温状態にあるため、暖水系と思われる本種が以前より増えた可能性もあります。しかしながら、本種の生態については不明な部分が多く、さらに知見を蓄積しなければ、高水温化の影響については分かりません。皆様からの情報もお待ちしておりますのでよろしくお願いします。

参考文献

日本産エビ類の分類と生態 根鰓亜目 林健一著(生物研究社)